

戦後の死亡低下の要因考察

羽 生 純 夫

“On the Factors of Mortality-Decrease after the War”

Sumio HABU

序

私は、吾が国の死亡統計を分析して、

- 1) 戦後の死亡低下は青年層に最も著しかつたこと。
 - 2) 青年層の死亡率は、産業の発展期に上昇し、後退期には低下したこと。
 - 3) 非労働年齢階級の死亡率の推移は必ずしも青年層のそれと一致しないが、それにも拘らず両者の関係を否定出来ないこと。
 - 4) 農村の死亡低下が都市のそれに比べてより緩慢であること。
- 等を知ることが出来た。^(註1)

然らば、戦後の急激な死亡低下が如何なる要因に基くものであるかを考察するのが本篇の目的である。勿論、死亡現象は複雑な社会事象の反映であり、それを左右する因子は無数に考えられ、各因子の比重も亦夫々異なる。而して各因子は相互に関係をもち、それらが総合した形で国民保健の上に影響を与えるものである。かかる複雑な関係にある因子を分析して、その要因をつかむことは容易でない。ただ死亡現象が歴史的、社会的に如何なる推移をとつたかを調べることでその主要因子を抽出し、それが今回の死亡低下に如何なる関係をもつかを検証するより途はないように思はれる。

それで、本篇では次の順序で検討を加えることとする。

- 1) 戦後の死亡低下は正しく何時から始まつたか。戦後の社会的変革との時間的關係を見るためである。
- 2) 近代の死亡低下が歴史的、社会的に如何なる推移をとつたかを先進諸国の二、三について検討する。
- 3) 近代的死亡低下を支配する因子について。
- 4) かかる死亡低下を支配する因子が今回の死亡低下に如何に作用したか。

このような方法による場合その結論はあくまで推定に過ぎないのであるが、敢えて之を試みるのは問題提出によつて斧正を仰がんとする微意に外ならない。

分析及び考察

I 戦後の死亡率の推移

戦後のめぐるましい社会の変化が死亡率に如何に作用したかが問題になる。戦争末期の不明の分(恐らく粗死亡率は上昇したものと思はれる)を除いて、昭和22年に既に低下している。^(註2)国民の

生活水準が死亡率と密接な関係をもつことはいうまでもないことながら、敗戦による社会の混乱にもかかわらず低下したことは注目に値する。煩を避けるために統計表を省略するが、この低下が青年層に最も著しいことは昭和25年の場合と同じである。これらの事実は死亡低下が敗戦を契機として生れたことを示すものであり、又、戦時中に青壮年の死亡上昇があつたことと関連して、青年層の死亡低下の要因が今回の死亡低下の要因として重要な役割をもつことを示すものである。

I 産業の発展を中心として英、仏、独に於ける死亡率の推移。

19世紀後半における死亡率の概略及び産業の発展との関連は次のようである。

1) 英 国

1841~50	17.7
51~60	18.5
61~70	25.5
71~80	22.4

英国は19世紀後半に入ると龐大な植民地の領有と、世界市場の独占的地位によつて産業は空前の盛況を呈した。その後、米、独に於ける産業の発展はその独占的地位を許されなくなつたこと、又国内に於ける重工業の発達は見逃せない事実である。

2) 独 乙

1841~45	26.2
61~65	26.0
81~85	25.7
1901~05	19.9

独乙の産業革命は英、仏に遅れて始まる。若い独乙の工業が急激に発展したのは普仏戦争を契機としており、19世紀末期は既に重化学工業が優位を占めておる。

3) 仏 蘭 西

1841~45	22.7
61~65	22.9
81~85	22.9
1901~05	19.6

仏蘭西の産業革命は英国に遅れて出発し、比較的小規模、且つ緩慢であつた。それでも普仏戦争直前、即ち、ナポレオン三世治下、経済活動は最も活潑であり、その後衰退していつた。

即ち三国に共通な現象は産業革命後ある時期まで死亡率は上昇或は停滞し、その後所謂近代的死亡低下に入つていいることである。しかも、産業革命が最も早く且つ、徹底的であつた英国で之の傾向が著しい。又、低下えの変曲点がほぼ軽工業から重工業へ（英、独）、或は産業活動の停滞（仏）の時期に當つていることも注目すべきである。

以上のことから、吾が国の死亡率の推移は時期的ズレを除けば西欧先進諸国のそれと軌を一つに

していることがうかがわれる。

Ⅲ 死因低下を支配する要素

一般に国民の健康状態はその国の文化の程度を示すものといわれる。産業革命は技術の飛躍的発展を基礎として現代の途を拓いたものである。かかる技術を基礎とした“文化の向上”は当然、吾々の生活内容を豊富なものとし、その結果は国民の健康増進となつて現はれなければならない筈である。然るに現実はその通り運ばなかつたことは吾が国のみでなく、先進諸国でも同様であつた。この事実は死亡低下の要因考察に当つて重要な示唆を与えるものである。即ち、産業革命期の労働条件が著しく劣悪であつたことは各国に共通した事実である。之が労働の担い手である青年層の健康を直接蝕んだことはいうまでもない。又、この劣悪な労働条件が特に低賃金を通じて更に彼等の家族の健康に悪影響を与えたことも容易に想像される。一方、その劣悪な労働条件にも拘らず、子女をして近代産業に奉仕させねばならなかつた国民層の経済的地位の低さ、即ち国民的窮乏自体が直接に彼等の健康を蝕んだことも争えない。このことが近代産業の発展に伴う雇傭力の増加と相俟つて“文化の向上”とは逆に死亡の増加となつて現はれたものと考えられる。

その後、社会環境の改善（生活、労働、文化の諸条件）は国民の生活水準の向上となり、所謂“文化の享受”が国民保健の上にプラスに作用する余地を見出したものと考えることが出来る。之が即ち、近代的死亡低下の要因と見做すべきものである。このことは大体において吾が国にもあてはめることが出来るが、青年層では労働条件の改善よりもむしろ産業の後退による労働条件からの解放が彼等の健康にプラスしたことは既に述べた通りである。而して、満洲事変以降の産業の発展は青年層の死亡の増加をもたらしたのであるから、吾が国の死亡率は必然的に鈍化せざるを得なかつた。結局、昭和7年以降、吾が国が別の方向を辿つていたとすれば、少くとも死亡率はより以上急激な低下を示していた筈である。然らば、今回の急激な死亡低下はとりもなおさず、戦時中の産業の発展に伴う悪条件が終戦に解消したことが大きな意味をもつと判断せざるを得ない。

具体的に終戦による悪条件の解消とは何を意味するか。近代的死因低下の要因である社会環境の改善のうちに求めなければならないことは当然である。今その具体的内容として a) 衣食住等の所謂“生活条件” b) 労働条件、 c) 医療施設、衛生政策等を含む有形無形の文化的諸条件にわけて、之等が終戦後如何に変化したかについて考えることにする。

a) 生活条件

国民栄養調査、住宅調査等に見るも戦後急速に国民の物的な生活内容が改善されたとは考えられない。昭和15年と比べてむしろ悪化を疑はしめるものがある。

b) 労働条件

労働条件が、昭和23年労働基準法の制定によつて劃期的に改善されたことはいうまでもない。然し、これは昭和22年の死亡低下を説明するものではない。むしろ、敗戦後の一応の近代産業の壊滅によつて劣悪な労働条件の介入すべき余地がなくなつたという方が真実である。特に戦時特例の名の下に行はれた労働強化が、青年層を主軸として全国民層に及んだことを思うと一層この感を深く

する。

c) 文化的諸条件

非常に広汎な内容を有するものであるがその二、三について述べる。

戦後の衛生政策が防疫に重点をおいたことは当然であるが、現代では急性伝染病が総死亡に占める比重は極めて軽い。

国民医療については、健康保険の拡張、国民健康保険の一時的壊滅からのたちなおりは何れも昭和23年以降であり、医療の普及の点からは当時はマイナスであつたとせねばならない。

戦後急速に進歩した医療技術、特に肺炎、結核等に於ける、スルファミン剤、ストレプトマイシンが国民的要望を満たすようになったのははるかその後である。

斯く考えると戦争直後の社会環境の変化中、国民保健へのプラスの面としては近代産業の崩壊による劣悪なる労働条件からの解放が最も注目すべきものとして残ることとなる。

結 論

1) 吾が国は大正9年を頂として、所謂近代的死亡低下に移るが、昭和7年以降、これを阻む要素が発達する。

2) その要素とは、産業の発展と密接な関係をもち、青年層の死亡を増加せしめるものであつた。

3) そのために、戦時中死亡率の停滞が現はれた。

4) 近代的死亡低下は社会環境の改善による文化の国民的享受によるものである。

5) 戦後の急激な死亡低下に照応する社会環境の変化は近代産業の崩壊による労働条件からの解放である。

6) よつて、戦後の死亡低下の要因として産業の崩壊による劣悪なる労働条件からの解放が主要な役割を演じたものと判断される。

要 約

近代的死亡低下は社会環境の改善に基くものであるが、戦後の急激な死亡率の低下は産業の崩壊を契機とした労働条件からの解放がその主要な要因をなしている。

註1 鹿大教研究紀要第5巻, 及び第6巻

註2 昭和15 16.5 昭和22 14.6

16 15.9 23 11.9

17 16.0 24 11.6

18 16.4 25 10.9

Summary ;—

The mortality-decrease in modern ages is, as the rule, due to the elevation of the standard of living. But the most important factor of the mortality-decrease after the war is the liberation from bad labour conditions which occurs with the destruction of industry.